

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00324

研究課題名(和文) 風俗歌・東遊歌を中心とする平安朝宮廷歌謡のテキスト生成に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research on text generation of Heian period court song centered on Fuzoku-uta & Azumaasobi-uta

研究代表者

飯島 一彦 (IIJIMA, Kazuhiko)

獨協大学・国際教養学部・非常勤講師

研究者番号：50212692

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の結果、平安朝宮廷歌謡の内の風俗歌について、平安時代、鎌倉時代にそれぞれの時代に応じて形成された各歌譜群があり、それらのうち、古写本として残されたもの、楽家に残された歌譜の一部が江戸時代にまで残されたもの、江戸時代の国学者によって古写本から筆写された別系統の歌詞群とがあったことが明らかになった。それによって昭和30年代にそれらが取捨選択されて岩波日本古典文学大系『古代歌謡集』にまとめられた内容が明らかになった。また、平安時代の物語の中では、風俗歌が辺境を暗示するテキストとして機能していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来神楽歌や催馬楽に比べて風俗歌・東遊歌のテキストがどのように形成されたかは明白ではなかったにもかかわらず、昭和32年の岩波古典文学大系『古代歌謡集』に示された「風俗歌・東遊歌」がテキストの典型として扱われ、疑われることがなかった。しかし、文芸的な1種類のテキストとして示されることで、歌謡本来の、音楽性や表現の場による可塑性や流動性が失われてしまった可能性もあり、また時代による表現の位相の違いがあったことも隠されてしまった可能性がある。

本研究はその可能性の一端を、歴史的な変化の相と、音楽的側面からの変容と、物語文学に引用された表現の相から示すことができた。

研究成果の概要(英文)： As a result of this research, regarding the Fuzoku-uta in the Heian period court songs, there are groups of song scores formed according to each period in the Heian period and the Kamakura period. So it became clear that some of the Fuzoku-uta songs were left as old manuscripts, and some of others left as manuscript of musicians until the Edo period, and that there were other lines of lyrics copied from old manuscripts by scholars of Kokugaku in the Edo period. Furthermore, it became clear how they were selected in the 30's of the Showa era and compiled into the Iwanami Koten Bungaku Taikei "Kodai Kayo-shu". Also, in the Monogatari literature of the Heian period, it became clear that the Fuzoku-uta functioned as a text suggesting a remote region .

研究分野：日本歌謡史研究

キーワード：風俗歌

1. 研究開始当初の背景

平安朝の代表的な宮廷歌謡である神楽歌・催馬楽・風俗歌・東遊歌・朗詠・今様等のうち、神楽歌・催馬楽・朗詠・今様についての研究は、昭和50年代以降平成時代を通じて格段の進展があったが、風俗歌・東遊歌についてはほとんど研究が進展しなかった。具体的には昭和32年発行の岩波『日本古典文学大系 古代歌謡集』(以下『古代歌謡集』)にて小西甚一が包括的なテキストを呈示して以降は、古写本の一部テキストに注釈作業が行われたに過ぎなかった。

しかし、『古代歌謡集』で呈示されたテキストは基本的には江戸時代に刊行された『楽章類語鈔』にまとめられたものを基本としており、それは昭和17年に発行された高野辰之による『日本歌謡集成』巻第二の考え方に基づいており、さらにそれに志田延義によって拡大された古代歌謡における「風俗」概念によって包摂しうる古代歌謡を取り入れて「風俗歌」というジャンルとして新たに呈示したと言って良かった。

ところが平成20年に鍋島家本『東遊歌風俗歌』が新たに発見されるに及んで、それが『楽章類語鈔』に収められた「風俗歌」の祖本の系統に当たる古写本であることが判明し、あらためて風俗歌とは何か、風俗歌のテキストとは何かを再考せざるを得ない状況が生じた。具体的には平安時代から江戸時代に至る『承德本古謡集』鍋島家本『東遊歌風俗歌』『文治本風俗譜』他の各写本等が見せる「風俗歌」テキストのあり方の大きな違いをどう整理し、理解するか、に迫られていたのである。

2. 研究の目的

平安時代から江戸時代に至る『承德本古謡集』鍋島家本『東遊歌風俗歌』『文治本風俗譜』他の「風俗歌」関連の各写本等に見られるテキストの大小の「ゆらぎ」を、歌謡のテキストが歴史的に生成し変化していく相として捉え、その時代的変遷を歌謡として明らかにすることで、あらためて「風俗歌」とは何かを示すことであった。

3. 研究の方法

第一に文献学的方法を用いて各写本相互の関係と、各写本成立の時代相を明らかにすることでテキスト生成の時代的変遷を俯瞰する。具体的にはまず各古本成立の時代的定位置をその内容と形態の比較などで示すこと。また、江戸時代国学者による写本生成の経緯を探ること。

第二に風俗歌のテキストを単に文字テキストとして捉えることなく、歌謡の持つ音楽的側面からの生成過程を分析し、各写本の定位置との関連付けを行う。

第三に風俗歌テキストが他の文芸ジャンルの中でどのように利用され、表現としてどのように生成したかを分析する。

4. 研究成果

まず平安朝宮廷歌謡の内の風俗歌について、平安時代、鎌倉時代にそれぞれの時代に応じて形成された様々な形態の風俗歌譜群があったことを、各々の古譜のあり方を比較することであらためて確認した。それらの風俗歌譜群は主に、歌譜が古写本として残されたもの(この中には琵琶譜・龍笛譜などとして残されたものも含む) 雅楽家に残された零落した時代の風俗歌譜の一部が江戸時代にまで残されたもの、江戸時代の国学者によって古写本から筆写された歌詞集成本群の三つの類型が、それぞれあったことが明らかになった。『古代歌謡集』『風俗歌』の底本となった『楽章類語鈔』は、江戸時代の国学者の写本によるものだが、それとは別に大量の賀茂真淵写本(本居宣長転写本)系統の写本が残されており、近世近代の風俗歌研究はすべてこれらによって始まったと言って良いことがわかった。そして、これら国学者系統の「風俗歌」写本は、すべて鍋島家本『東遊歌神楽歌』、もしくは同系統の古本を祖本とすることが明白となった。従って、本来風俗歌の歌譜群は、本来前者二つの類型しかなかったのだが、江戸時代の国学者の写本と研究によって、実は「風俗歌」という研究対象が形成されたと言って良い。さらに『古代歌謡集』の「風俗歌」の集成によって、国文学の研究対象として「風俗歌」テキストというジャンルが形成されたのであった。

また、平安時代における音楽的側面からは、まず風俗歌の担い手を諸史料より示し、彼らが実際に歌った風俗歌が文芸や諸資料の中でどのように引用されているかを示して、歌謡としての風俗歌が社会・歴史の位相の中でどのように存在したかを明示した。その上で風俗歌の諸古譜に示される風俗歌「大鳥」の音楽性の検討がなされ、それらの間における音楽的な共通性とテキストの「ゆらぎ」に対する新たな見解が呈示された。

また、平安時代の物語への風俗歌テキストの引用に関して、『源氏物語』『真木柱』巻における風俗歌「鴛鴦」の引用を主軸として、『源氏物語』の他の歌謡の引用の各箇所や、他の和歌や物

語への催馬楽・風俗歌などの引用を比較していくことで、「地名を含む歌謡の引用が持つ越境性」が摘出されることが明白になった。その観点からあらためて当該の引用を検討・分析することで、風俗歌は境界を暗示するテキストとして機能していたことが明らかになった。そこから、平安朝物語において風俗歌が引用されるときに、そこには東国という、より都から遠く離れた境界のイメージが喚起されるのではないかというテーゼが示されることになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 本塚 巨	4. 巻 59
2. 論文標題 風俗歌の古楽譜について 《大鳥》の分析を例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歌謡研究	6. 最初と最後の頁 53-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 本塚 巨
2. 発表標題 風俗歌・東遊歌の本文をめぐる研究展望
3. 学会等名 日本歌謡学会令和元年度春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯島 一彦
2. 発表標題 「風俗歌」とは何か - 風俗歌テキスト生成にかかわる諸問題について -
3. 学会等名 中世歌謡研究会令和元年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯島 一彦
2. 発表標題 「風俗歌」とは何か 風俗歌テキスト生成にかかわる諸問題について
3. 学会等名 日本歌謡学会令和2年度秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山崎薫
2. 発表標題 『源氏物語』「真木柱」巻における風俗歌「鴛鴦」の引用 歌謡と「越境」とのかかわりに注目して
3. 学会等名 令和二年度早稲田大学国文学会秋季大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	城崎 陽子 (SHIROSAKI Youko) (20384000)	獨協大学・国際教養学部・特任教授 (32406)	
研究分担者	本塚 亘 (MOTOTSUKA Wataru) (20816136)	獨協大学・外国語学研究科・研究生 (32406)	
研究分担者	山崎 薫 (YAMASAKI Kaoru) (90822958)	盛岡大学・文学部・助教 (31203)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------